

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成25年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

## 第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の平成24事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、平成24事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

### 1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

### 2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標の全体的進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・自己評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

## 第2 全体評価

### 1 評価結果と判断理由

#### (1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の平成24年度の業務実績に関しては、全体として「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

#### (2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の養成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

公立大学法人化後3年度目となる平成24年度は、前年度に実施した当評価委員会の評価結果を踏まえ、課題とした事項の改善に努めるとともに、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けて教職員を挙げて取り組んでいる。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」については、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」については、「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と認められ、これらの状況と平成24年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価が相当と判断した。

#### (3) 平成24年度の重点的な取組

##### ア 教育内容の充実について

平成27年度の教育課程改正に向けた取組のほか、英語等の語学力強化への取組として、平成25年度から開設する「英語・中国語教育センター」の設置準備などを行った。

##### イ 学習及び生活支援の充実について

授業料減免制度の拡充や大学院における平成25年度からの長期履修制度<sup>※1</sup>の導入に向けた準備などを行った。

---

※1 長期履修制度:職業を有していること等により、通常の大学院修了年限(2年)で修了することが困難と認められる者に対し、通常の2年間の授業料で履修期間を3年間とする制度

## ウ 国際交流について

平成 25 年度に新たにフランス及びインドネシアの大学と交流協定を締結することとし、協定の締結に向けた協議等を行ったほか、海外の大学や大使館からの来訪者の受入れなど、積極的に国際交流を推進した。

## エ 情報公開の推進等について

情報公開の推進や大学の広報を充実させるためのホームページのリニューアル化の作業を教職員が協働して行ったほか、情報資産の取扱や運用・管理を定めた方針及び安全対策基準を作成した。

## 2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 業務実績報告書の自己評価の判断理由欄の記載については、全体的に実施状況の記載に留まっており、実施した取組の具体的な内容やその取組に対する評価の記載が十分でない箇所が認められた。県民に分かりやすく説明するためにも、年度計画の進捗状況、当該計画を実施するために講じた措置、法人の考える達成水準に照らした達成状況及び自己評価の判断理由を明確に記載することが必要である。
- ・ 引き続き検討中のものについては、組織的・戦略的に検討を進め、実現に向けて取り組んでいく必要がある。
- ・ 平成 24 年度に実施した法人の自己点検・評価による業務の見直しと併せて、本評価結果を大学の活性化及び大学運営の効率化のために積極的に活用し、教育研究の一層の充実を図ることで中期目標が着実に達成されることを期待する。

### [参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

### 第3 項目別評価

#### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 評価結果と判断理由

###### (1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

###### (2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標において、当評価委員会の検証の結果、年度計画記載の66項目中19項目が「計画を上回って実施している」、また47項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

###### (3) 特に評価する項目

- ・ 平成27年度の教育課程改正に併せたデザイン学部の学科の再編成に向けた検討を行い、学科数や入学定員を定めた基本骨子を作成した。
- ・ 中期計画に掲げる語学教育の強化を実現するため、予定を前倒しして平成25年度から「英語・中国語教育センター」を設置することとし、教育プログラムの検討、教員の採用、設備の整備等設置に向けた準備を行った。
- ・ 情報公開等をより推進するため、平成25年度から学術リポジトリ※2を導入することとし、国立情報学研究所が提供するシステムへの利用登録申請など利用に当たって必要な準備を行った。
- ・ 社会人の学習機会の拡大を図るため、大学院において平成25年度から長期履修制度を導入することとし、導入に向けて学則の改正等を行った。
- ・ 学生への経済的支援策の充実強化を図るため、経済的理由による授業料減免の対象を拡大し、制度の拡充を行った。
- ・ 地元の民間企業からの寄附金により、初めて冠講座（地域貢献特別講座）を開催したほか、静岡県や静岡県立大学など地域の自治体・大学等からの受託事業を実施した。
- ・ 平成25年度に新たにフランスのブルゴーニュ大学国際フランス語センター及びインドネシアのイルランガ大学と交流協定を締結することとし、協定の締結に向けた協議等を行った。

---

※2 学術リポジトリ:大学の教育研究活動から産み出された知的生産物の保存、公開発信を行うインターネット上のシステム

## 2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 依然厳しい就職環境にも係らず、2年連続で前年度を上回る就職率<sup>※3</sup>を確保したことは評価できる。ただし、より重要なのは数ではなく質であることから、今後は、就職後の追跡調査を一層充実させ、全学的な就職支援体制の更なる強化に期待する。
- ・ 英語を始めとした語学教育の強化を推進していることは高く評価できるため、更なる充実を期待する。なお、平成24年度から実施している全入学生のTOEICブリッジテスト<sup>※4</sup>の受験及び継続的なモニタリングについては、得点だけではなく学生の学力の分析を含めた取組が求められる。

### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	28	8	20	0	0
2 学生支援	10	2	8	0	0
3 研究	11	0	11	0	0
4 地域貢献	13	7	6	0	0
5 国際交流	4	2	2	0	0
合 計	66	19 (28.8%)	47 (71.2%)	0	0

※3 就職率:H25.3 卒業者:92.8%、H24.3 卒業者:91.5%、H23.3 卒業者:91.2%

※4 TOEICブリッジテスト:TOEIC試験の初級・中級者向けの英語のテスト。目安としては、TOEICのスコアで450点以下の人が適している。

## II 法人の経営に関する目標

### 1 評価結果と判断理由

#### (1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

#### (2) 判断理由

法人の経営に関する目標において、当評価委員会の検証の結果、年度計画記載の24項目中3項目が「計画を上回って実施している」、また21項目が「計画を十分に実施している」と認められるため、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

#### (3) 特に評価する項目

- ・ 語学教育や教職課程の教育実習等の充実・強化を図るため、多様な職種及び勤務形態に応じた教職員の採用制度を活用し、任期付教員や専門員を採用した。
- ・ 外部資金の獲得に向けた支援体制を充実・強化するため、担当窓口を一本化して事務の効率化を図るとともに、教員を対象にした説明会を開催した。
- ・ 一層の経費削減を実現するため、教職員を対象にした決算等に関する説明会を開催し、コスト意識の啓発を図った。また、設備等を安定的に管理するため委託業務を複数年契約化したほか、より効率的に予算を執行するため、学内のパソコンなどをリース契約することにより毎年度の支出額の平準化を図った。

### 2 評価に当たっての意見、指摘等

教育研究の活性化や事務処理の効率化のための情報システム等の更新が順次行われているが、今後も計画的なシステムの更新等により事務の効率化を進めることを期待する。

#### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営の改善及び効率化	18	3	15	0	0
2 財務内容の改善	6	0	6	0	0
合計	24	3 (12.5%)	21 (87.5%)	0	0

### Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

#### 1 評価結果と判断理由

##### (1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と評価する。

##### (2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標において、当評価委員会の検証の結果、年度計画記載の7項目中6項目が「計画を十分に実施している」と認められるため、この状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

##### (3) 特に評価する項目

- ・ 全学的な自己点検・評価<sup>※5</sup>を実施し、その評価結果を公表するとともに、平成25事業年度の年度計画及び予算に反映した。
- ・ 情報公開の推進、必要とする情報への的確な導線の配置、万人向けデザインの採用及び発信力の強化を推進するため、ホームページをリニューアルする作業を教職員が協働して進めた（平成25年4月1日公開）。
- ・ 情報資産に対する適切な安全対策を図りつつ、その保護と活用を推進するため、当該資産の取扱や情報システムの運用及び管理について定めた方針及び安全対策基準を作成し、個人情報等の漏洩防止や不正アクセス対策・ウイルス対策などに取り組んだ。

##### (4) 課題とする項目

創立10周年事業の一環として平成23事業年度から計画されていた「SUAC<sup>※6</sup>史（仮題）」の刊行について、2年連続で編纂作業の実施に留まっているため、計画の達成に向けた速やかな対応を求める。

#### 2 評価に当たっての意見、指摘等

中期目標期間に係る評価において、認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価<sup>※7</sup>を踏まえることとされており、当評価委員会としても進捗状況を把握しておく必要があることから、改善状況については毎年度、当評価委員会に報告されたい。

---

※5 自己点検・評価：大学が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともにその社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行うこと。

※6 SUAC：静岡文化芸術大学の英語標記(Shizuoka University Of Art And Culture)の略称

※7 認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価：7年以内ごとに受けることが義務付けられている、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価



[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 評価の充実	2	0	2	0	0
2 情報公開・広 報等の充実	5	0	4	1	0
合 計	7	0	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0

#### IV その他業務運営に関する重要目標

##### 1 評価結果と判断理由

###### (1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

###### (2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標において、当評価委員会の検証の結果、年度計画記載の6項目中1項目が「計画を上回って実施している」、また5項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

###### (3) 特に評価する項目

- ・ 施設・設備の適切な維持管理を行うため、実地調査により建物の劣化診断を行い、より実態に即した長期保全計画のデータ修正・更新を行うとともに中期保全計画を策定した。
- ・ 大規模災害に備え、津波被害を初めて取り入れた防災訓練を実施したほか、学生の居住地分布図を作成し津波への対応を検討した。

##### 2 評価に当たっての意見、指摘等

ハラスメント防止対策については、大学で実施した対策の効果の確認には至らなかったため、実績が年度計画を上回っているとは判断できない。しかし、相談体制の拡充のほか、職種や役割に応じた研修の実施などに努めたことは評価できる項目であり、今後、更なるハラスメント防止体制の充実に向け、教職員全員が常に危機感を持ち、防止対策の実施から効果の検証及び改善までを継続的に行うなど、全学的な最善の努力を積み重ねていくことを期待する。

##### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設設備の整備・活用等	1	0	1	0	0
2 安全管理	4	1	3	0	0
3 人権の尊重	1	0	1	0	0
合計	6	1 (16.7%)	5 (83.3%)	0	0